

CONCERT REPORT

取手シニアアンサンブルの第一回定期演奏会

レポート：つくばSE 谷岡憲隆

2015年11月29日（日）に取手シニアアンサンブル第一回定期演奏会が行われました。会場は取手駅前に10月1日新しくオープンした取手ウェルネスプラザで、約400人の観客席は満席になるほどの盛況でした。記念すべき第一回定期演奏会は観客からも多くの拍手を受け輝かしい第一歩を踏み出しました。

リハーサルでは皆さんの意気込みが強すぎて、緊張のためか曲の流れにぎくしゃくした一面もありましたが、本番に入ると別の楽団のように力強い演奏をして観客を楽しませてくれました。



プログラムは四部構成で、第一部はクラシック編、ジュピター、アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク第1楽章、おもちゃの交響曲、ペルシャの市場を演奏しました。第二部は世界民謡めぐり、ヨーロッパ編、アメリカ編、日本編のメドレー曲を演奏しました。特に最後の日本民謡メドレーの「八木節」では青い法被を纏った3人の樽叩きは太くに会場を盛り上げてくれました。観客席からもたくさんの拍手を受けました。

休憩を挟んで、第三部ではポピュラー編、一晩中踊り明かそう、ラ・クンパルシータ、シャレードなどを5曲演奏しました。第四部は、童謡・唱歌・懐メロ編、昔懐かしい曲を観客と一緒に歌う演出がありました。月の砂漠、知床旅情、青い山脈、いい日旅立ちではステージの演奏と観客席の合唱が一体になり会場の雰囲気は最高潮に達しました。アンコールではクリスマスソング・メドレーで幕を閉じました。

全体を通して定期演奏会の初回としては非常に盛況であったという印象であり、演奏会後の出口でのお客様の表情は、満足したようにこやかな顔が多かったのが印象的でした。

ブラボー！！ 成田シニア「あおぞら」

レポート：四街道SE 佐々木信一

「どうしてこんなに上手なの!!」。コンサートが終わったとたん叫ばざるを得ませんでした。そしてステージから降りてこられた佐々木代表に同じ言葉を投げかけました。

平成27年9月12日、結成2年の若さで初めての第1回定期演奏会。それは初回とは思えない素晴らしいコンサートでした。

冒頭、小泉成田市長の挨拶は「今日の青空を待っていたかのようなユニフォーム………」とユーモアたっぷりで始まりました。なるほど、女性は鮮やかなスカイブルー。成田空港の街とそれに囚んだ空の青さ。「あおぞら」とは本当によいニックネームです。次いで岡村全シ連理事長の挨拶「さすがいい気持ちでこれからも練習をしましょう！」という呼びかけ。岡村理事長は「あおぞら」のメンバーとしても活躍しておられます。



入念なりハーサル

さて、第1曲目は成島先生の指揮で「真珠採りのタンゴ」からスタート。タンゴ・民謡・クラシックと続きます。タンゴ特有の歯切れのよいリズム。コントラバスのピチカート低音の魅力、そして日本民謡独特のリズム。キーボードのソロ部分には会場から拍手が。中には、お客さんが拍子を取り、口ずさんでいる様子が見て取れます。第2部の途中では会場全員で合唱。佐々木代表のリードで「ふるさと」と「青い山脈」を。会場一杯に歌声が響いて、まさにステージと会場が一緒になった瞬間です。感激の瞬間です。そして、プログラムを終えた19名の団員から成島先生に花束が贈られ、アンコールを2曲。こうして第1回の定期演奏会は成功裡のうちに終了しました。成島先生も団員メンバーの皆さんも大変努力されたことだと拝察しました。

また、今回は近隣の千葉シニア、四街道シニアが裏方の応援に駆けつけましたが、その作業も殆ど団員たちで手際よく準備を済ませておられ、手持ちぶたさの場面もあるくらいの完璧さに驚かされました。

演奏に準備に、発足以来2年にして、素晴らしい企画だったと賞賛の念を禁じ得ません。今後のますますのご発展をお祈りするとともに、必ずそうなるものと信じております。

本当にお疲れ様。お見事でした。